

本年度の重点目標 「ちがいを認め合い、共に学ぶ子どもの育成」

秋が一段と深まり、朝夕の冷え込みに冬の気配を感じる季節となりました。校庭の木々も色づきはじめ、子どもたちは落ち葉を集めたり、元気いっぱい外遊びを楽しんだりしています。

愛校作業・教育講演会 あいがとうございました。

10月18日は、PTA主催の愛校作業と教育講演会にご参加いただき、誠にありがとうございました。早朝から多くの保護者の皆様が子どもたちと協力してくださり、校内外がたいへんきれいになりました。皆様の温かいご支援とご協力に心より感謝申し上げます。おかげさまで、子どもたちがより快適で、安全に学べる環境が整いました。

また、作業後の教育講演会にも多数ご参加いただきました。改めて、命の大切さについて考える良い機会となりました。これからも「上妻小学校」を大切にしながら、家庭・地域・学校が力を合わせて子どもたちを育てていきたいと思えます。今後とも本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

修学旅行に行ってきました😊(10月31日・11月1日)

秋を感じる季節とともに、6年生は長崎への修学旅行を終えました。この修学旅行では、ただの見学や観光ではなく、自分たちで考えた目標を胸に、友達と協力し合いたくさんのことを学びました。

長崎では、1日目に原爆資料館の見学や被爆体験を語ってくださる方のお話を聞きました。子どもたちは、当時の人々がどれほど苦しみ、どれほど強く生き抜いたかを真剣な表情で聞いていました。その姿から「命の尊さ」や「今の平和が決して当たり前ではない」ということを深く感じ取っていたようです。

また、グラバー園や出島などでは、国際交流の歴史にも触れることができ、日本がどのように世界とかわかってきたのかをグループに分かれ楽しく学習しました。異国の文化が混ざり合う長崎の街並みを歩く中で、子どもたちはたくさんのことを感じ取ったようです。



今回の修学旅行では、見学や体験を通して「学ぶことの大切さ」や「平和を胸に未来を生きる」ことを考える貴重な機会となりました。子どもたちがこの学びを胸に、これからも平和を大切に、人と人が支え合う社会を築いてほしいと思えます。

ご家庭の皆様には、修学旅行に対し、ご理解とご協力いただきありがとうございました。





11月3日 八女市「第50回帰居祭 坂本繁二郎画伯をたたえるつどい」
に本校の児童が八女市の小学校代表で作文を発表しました。落ち着いて堂々と読み上げる姿は、とても素晴らしかったです。

坂本繁二郎の歩んだ道

八女市立上妻小学校 ()

みなさんは、坂本繁二郎さんを知っていますか。私は、授業の中で坂本繁二郎という画家のことを知りました。最初にその名前を聞いたとき、私は「坂本繁二郎さんとは、どんな人だったのだろう。」と疑問に思いました。調べていくうちに、繁二郎さんの生き方や作品には、私たちに大切なことを教えてくれる力があることに気がつくしました。

坂本繁二郎さんは、一八八二年に福岡県久留米市で生まれました。子どものころから絵がとても上手で、周りの人から「神童」と呼ばれていました。私は、なぜ絵が上手いからといって、神童と呼ばれていたのか気になったので、さらに調べてみました。すると、繁二郎さんの作品は、精神的な存在を感じさせ静かな生命力かつ、とても神秘的な雰囲気を感じ出していることから、そのように呼ばれていたことがわかりました。周囲からそのように呼ばれていた繁二郎さんですが、すぐに一流の画家になれたわけではありません。繁二郎さんの人生には、数えきれないほどの努力と苦労がありました。

二十歳で上京した繁二郎さんは、絵を学びながらもなかなか評価されませんでした。それでも諦めず、東京美術学校や研究所で腕をみがき、展覧会に作品を出し続けました。やがて大正時代に入ると、繁二郎さんの静かで深みのある絵が人々に認められるようになりました。私はこのことから、「続けることの大切さ」を学びました。うまくいかなくても、続けることが夢に近づく道だと感じました。

さらに繁二郎さんは、四十歳を過ぎてからフランスに留学しました。普通なら、その年齢で海外に行くことは勇気のいることだと思います。しかし、繁二郎さんは、学ぶことをやめず、フランスでは西洋の芸術を吸収し、自分の表現をより深めていきました。私はこのことから、私も「新しいことに挑戦する心」を持ち続けたいと思いました。

繁二郎さんの絵といえば、やはり馬の絵が有名です。なぜ馬を描き続けたのか、私はとても気になりました。調べてみると、馬はただの動物ではなく、静けさや精神的な深みを表すものとして描かれていたそうです。たしかに、繁二郎さんの代表作である「放牧三馬」や「水より上る馬」などの作品は、力強いというよりもじつと立ちつくす姿が多く、不思議な落ち着きを感じます。私はその馬の姿が、学ぶことをやめず、常に信念をもって絵を描いていた繁二郎さん自身の生き方に重なるように見えました。

また、晩年はふるさとの八女に帰り、身近な風景を多く描きました。遠くに出て学びながらも、最後にはふるさとを大切にしたいという気持ちが心に打たれました。自分を育ててくれた場所を忘れずに愛する気持ちとは、とてもすばらしいと思います。もし、私が大人になって遠くで暮らすことあったとしたら、この八女の地の自然や友達、家族を大切にしたいと思います。一生懸命に自分の道を歩み続けた繁二郎さんは、八十歳を過ぎてもなお

作品を作り続けて、文化勲章を受けました。その姿は、まさに「生涯現役」という言葉にふさわしいものです。私は、繁二郎さんの生き方を調べながら、「夢をもって努力し続けること」「新しいことに挑戦する勇氣」「ふるさとを愛する心」という三つのことを学びました。一つの夢を一生懸命追いかけた坂本繁二郎さんは八女の人々にとって、とても誇らしい存在だと思っています。私もこれから、途中であきらめず、自分の夢に向かって努力していった繁二郎さんのように、一つ一つのことを一生懸命取り組んでいきたいです。そして、繁二郎さんのように、たとえ時間がかかっても、自分の道を歩んでいける人になりたいと思いました。